

学びの風便り

リーディングスクール通信 49 R7.9.11

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 鎌田中学校・菅野中学校 ＊共に学び合う子どもと教師 ～わくわくする授業をつくる～ ＊

鎌田中学校では、総合的な学習の時間「KMDタイム」がスタートしています。今年度から研究主任を務める新井先生は、「探究を教科に、教科を探究に」を掲げ、学校のすべての教育活動において生徒が自ら学ぶ力をつけていく学校を創造したい、その具現化の手立てとして、先生方が「探究のサイクル」を再認識することが大切だと語ります。鎌田中では、「探究を『一区切り』のサイクルが連続的につながっていくもの」ととらえ、その『一区切り』のサイクルが学びの『型』や『テンプレート』となり、探究のサイクルとなって新たな学びへとつながっていくもの」と考えています。今年度は特に「一区切り」の学びの過程をメタ的に振り返ることに焦点を当てつつ、授業改善に取り組んでいます。

総合的な学習の時間（KMDタイム）の主任の湯澤先生（2学年）は、この方針を受け、探究が日常的になるように願い、昇降口にそれぞれのグループの進捗状況を確認できるボードを設置し、日々の生徒の話題となるよう工夫しました。



2学年活動の立ち上げにあたっては「教師のワクワク感」を大事にし、活動の入り口は担当の先生が地域貢献という観点から自身の経験や興味関心からテーマを設定します。もちろん、入り口が担当の先生の提案であっても、KMDタイムの理念は変わりません。松本市の課題の解決から地域貢献を考えていく中で、粘り強く探究し、人間関係を深めていくこと、さらに自分の人生をより豊かにしていくことを目指しています。実際、5月に行われたオリエンテーションで湯澤先生が例に挙げた題材は、ご自身の趣味であるメダカでした。「メダカで地域貢献」と題し、メダカのことを深く知っている湯澤先生にしかできない地域貢献への大きな可能性が語られました。生徒からは「なるほど」との言葉が聞かれ、今まで自分が知らなかった分野からの地域貢献の可能性に大きな期待がかけられていました。「教師のワクワク感」があるからこそ、生徒に日常的に話題を持っていける利点があると思います。日々生徒たちと答えのない問いに向かう力を育む、総合的な学習の時間を模索しています。

1学期最終のKMDタイム。8月の「KMDサマーフェスティバル」に向け、お笑いグループが発表に向けての練習をしていました。お笑いのネタ作りに励む生徒たち。喧々譁々の議論からノートにネタの骨格を作っていくグループ、静かにタブレットに向かいながら読み原稿を作るグループ、思い立ったらまずやってみて反応を確かめるグループと取り組み方は様々です。印象的なのはその様子を笑顔で見守る担当の湯澤先生のまなざしです。まずは地域の方の笑顔のために頑張る生徒を励まし、その上で生徒の「お笑い」が地域貢献につながることを、実感をもって支える先生の姿が見えました。



＊ 菅野中学校 先生たちの「協働的な学び」を目指した歩み ＊

菅野中学校では、「学びのテーマ『協働』」を生徒たち・先生たちが共有し、様々な場面で対話しながら学びを深める授業づくり・学校づくりをめざしています。

今年度、新たにリーディングスクールとしての取組を進めるにあたって、菅野中の先生たちが大切にしているのは、「先生たち自身が協働的に学ぶ経験を重ねること」です。思いや考えを交流しながら、ともに「ことを創る」楽しさを先生自身が実感することが、授業や活動の中での生徒たちの「協働」を一層後押しする、と考えるからです。ここでは、これまで、菅野中学校の先生たちが取組んできた「協働」を目指した歩みをご紹介します。

先生たちの「協働」を引き出す体制づくり

年度当初、研究のスタートにあたり、研究主任の飯森先生は、「生徒の学びを深めるために、どんなことに取組みたいですか？」と先生たちに問いかけ、先生たちから寄せられた回答から「問い」「対話」「フィードバック」等のキーワードを決めました。そして、それをもとに8つのラーニンググループ(LG)を編成し、授業づくり等を協働的に学び合う体制を作りました。



6月には LG 立ち上げの会を実施しました。BGM が流れる、カフェのようなリラックスした雰囲気の中、集まった先生たちは初めての体制に、初めは戸惑いながらも、次第に会話を弾ませ、授業計画や役割分担などを模造紙に書き込んでいきました。その後、「見合 Week」と名付けた授業の相互参観を実施、それぞれの LG メンバーで授業参観を行い、フィードバックを交流しました。

SLS (Sugano Learning Session)

菅野中の「協働の学び」の体制づくりはさらに進みます。全 LG が集まり、振り返りを共有したり、共通のテーマで意見交流したりする機会を「SLS(菅野ラーニング・セッション)」と名付けました。

7月には第1回の SLS を開催。見合 Week の授業の手応えや、指導主事のアドバイスを共有するとともに、互いの授業への思いを語り合う機会を持ちました。

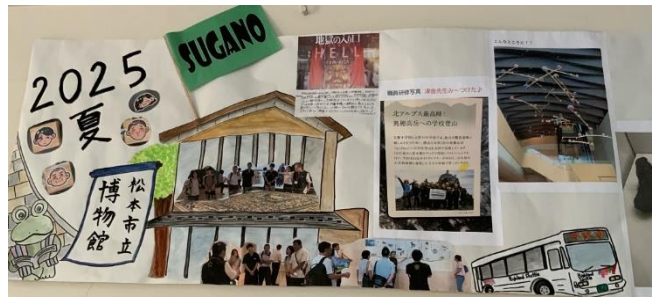
「協働」の高まりを実感する

夏休み中に行われた「サマーセミナー」は、このような歩みを続けてきた菅野中の先生たちの協働性(≒同僚性)の高まりを実感する機会となりました。飯森先生からの「心惹かれたものを写真にとって、紹介し合いましょう」という「お題」を胸に市立博物館～松本城をフィールドに「探索」した先生方は、それは楽しそうに語り合いながら、興味深く、それぞれの「問い」を見つけていきました。

教頭先生は、「先生たちが、みんなで一緒に学び合うことを本当に楽しんでいる様子に胸を打たれました。」と、その時の様子を写真と絵、言葉でまとめた「絵巻」をつくり、生徒昇降口に掲示されました。

「先生たちの様子に触れ、本当に幸せな気持ちになりました」という校長先生は、研修の様子を「先生たちの協働的な学び」として、2学期始業式で生徒たちに紹介されました。

また、校長先生、教頭先生は「職員室で、先生たちが子どものこと、授業のことを語り合う姿が増えた」と口をそろえ、先生たちの同僚性が高まっている実感を語られました。



今後に向けて

2学期がスタートし、すでに第2回の SLS が開かれました。9月には LG の中間アウトプット会、10月には長野短大の畔上先生を招いて共同授業参観が予定されています。

このような一つ一つの取組を丁寧に重ね、振り返りながら、菅野中学校では先生たちの「協働の学び」を紡いでいきます。